

乳幼児の健康及び発達に影響を及ぼす 社会環境的条件に関する研究

高城義太郎（玉川大学文学部）
 松波 昭夫（松波小児科医院）
 齋藤 敬能（横浜国立大学教育学部）
 松本 恭治（国立公衆衛生院建築衛生学部）
 荻須 隆雄（玉川大学文学部）

1. 研究目的

母子の健康・安全行動は、生態系としての住居、近隣環境、遊び場の状況等に大きく支配される。また、乳幼児の微症状、運動不足症候群、事故等の発現は、社会環境条件と高関係にある。

しかし、これらに関する体系的かつ総合的分析データは極めて少ない現状にあり、特に、都市化、情報化との関連下における学際的研究が切望されている。

2. 研究計画

- ① 本年度の研究計画は次の通りである。
- (1) 乳幼児の健康及び発達に影響を及ぼす社会環境的条件の実態に関する調査の実施。
- ア. 特に、都市部を中心として、住宅地域、商・工業地域等の地域特性類型別、また、高層住宅群等の住宅形態類型別の視点から質問紙調査を行なう。
- イ. 社会環境的条件としては、乳幼児の生活圏を考慮し、家庭住居、地域の遊び場、児童館等の公共施設等物的条件とともに、地域の対人関係、地域組織等の人的条件についても問題にする。

ウ. 乳幼児の健康、発達状態の把握に当たっては、微症状保有状態、事故発生、運動遊びの実現状態、健康生活に関するライフ・スタイル、精神衛生状態を因子として重視する。

エ. 調査事項の設定に当たっては、小児保健学、安全教育学、児童福祉学、発達心理学、建築衛生学の見地から、現下の課題性を考慮しつつ総合的にまとめる。

オ. 実態調査は、親に対する質問紙法を主とし、保育所および幼稚園を通して行なう。本年度の実態調査は、表1の地域特性類型に帰属する保育所（0歳から就学前の全年齢層の乳幼児を含み、両親が就労している等の同一条件において総合的な問題把握に有効であるために選定し、プリ・テスト的意義をもたせる）について行なう。

(2) 本テーマに関する内外の先行研究文献について、各研究協力者の専門分野にわたり、体系的に収集、整理を行なう。

- ② 本年度の研究結果に基づいて、今後は次の内容についての研究を計画している。
- (1) 本年度の実態調査結果について、小児保

表1 調査対象

地域特性類型	保育所名	所在地	運営主体	調査対象人員					計
				0~1	2	3	4	5~歳	
住宅・商業地域	S保育所	東京都新宿区K町	社会福祉法人	13 ^人	9 ^人	16 ^人	14 ^人	9 ^人	61 ^人
新興住宅・農業兼業地域	N保育所	東京都武蔵村山市	〃	9	14	43	35	37	138
住宅・農業兼業地域	A保育所	神奈川県藤沢市	〃	4	3	7	12	56	82

健学，安全教育学，児童福祉学，建築衛生学，発達心理学の見地からの分析

- (2) 分析結果に基づく主要社会環境要因の設定
- (3) 乳幼児保健・安全の視点からの社会環境整備に関するソーシャル・プログラムへの提案
- (4) 社会環境的条件を考慮した乳幼児保健・安全に関する保健指導ガイドラインの作成

3. 理論仮説

国内・外における当該先行研究データより，次の理論仮説が成立する。

- ① 母子の健康・安全行動は，生態系 (ecosystem) としての住居，地域生活環境〔物的・人的環境，特に遊びの環境 (play environment)，地域の対人関係及び地域組織，母子保健・児童福祉機関，施設の機能・活力) の状況に大きく支配される。
- ② 今日，社会的に問題視されている乳幼児の微症状 (subclinical symptoms)，運動不足症 (hypokinetic diseases)，事故・災害の発現は心理・社会的要因 (psychosocial factors) 及び社会・文化的要因 (sociocultural factors) がその背景にあり，その関係についてのトータルな把握が問題処方にとって極めて重要である。

4. 調査結果の分析・考察

今回の研究調査対象の保育所は，新宿区の住宅 (高層住宅を含む)・商業地域にある S 保育所，武蔵村山市の新興住宅および農業兼業地域にある N 保育所，さらに，神奈川県藤沢市の住宅および農業地域にある A 保育所の 3 施設である。この 3 施設のうち，N 保育所と A 保育所は比較的類似度の高い地域環境であるのに対して，S 保育所は，過密地域の大都市中心部にある保育所である。そこで，本年度は，環境の異なる両者の保育所について検討を行ったものである (表 2, 3, 4)。

現在の子どもの健康状態に関する設問に対し，「すこぶる健康である」と回答したものは，S 保育所 62.3% であるのに対して，他の 2 施設は

40% 台であり，かなりの差がみられ，子どもの健康状態に関する親の意識面において格差がみられる。なお，同様の傾向は，子どもの「活発さ」についても認められる (表 5, 7)。

子どもの微症状については，「咳が出やすい」「湿疹・ブツブツができやすい」が全体的に高い値である。また，S 保育所においては「咳が出やすい」「ゼイゼイ，ゼロゼロなどと言いやすい」「湿疹・ブツブツが出やすい」など呼吸器系・皮膚系の症状が多くみられるが，それは都市型居住環境と関係していると思われる。一方，N 保育所と A 保育所は全体的に値が分散しており，しかも割合低い値を示している (表 6)。

子どもの住居環境をみると，N 保育所と A 保育所は 50% 以上が「持ち家」であるのに対して，S 保育所は 30% 台でかなりの差がみられ，住宅の所有関係については 5% の有意差がみられる (表 8)。「住宅の建て方」についてみると，「一戸建て」は N 保育所 81.2%，A 保育所 67.1% であるのに対して，S 保育所は 21.3% と低い値であり，しかも，60% 以上の子どもは 3 階建て以上の集合住宅に住んでいると回答しており，大都市環境の中で生活していることが顕著である。なお，住宅の建て方についての検定の結果は，1% 水準で有意差がみられる (表 9)。

次に，子どもが生活をする「住宅の階数」についてみると，3 階以上で生活をする子どもが，S 保育所 37.7% であるのに対して，N 保育所と A 保育所では 5.5% である。しかも，1 階で生活する子どもは両施設とも 80% 以上であるのに対して，S 保育所は 39.3% と非常に低い値となっている (表 11)。また，「住宅の構造」についてみても，S 保育所は木造・木造モルタル造 (37.7%)，鉄筋コンクリート造・鉄骨造 (62.3%) であるのに対して，N 保育所，A 保育所ともに木造・木造モルタル造が 70% 以上であり，鉄筋コンクリート造・鉄骨造は約 20% 程度であって，S 保育所の子どもの多くが鉄筋コンクリート・鉄骨造の高層アパートに居住していることがわかる (表 10)。なお，「住宅の階数」および住宅の構造とも 1% 水準で有意差が認められる。

住宅，近隣，地域環境の「適・不適」につい

ては、各項目の「良い」「やや良い」を合わせて比較してみると、全般的にS保育所は60%台であるのに対して、N保育所とA保育所はともに80～90%台を占め、S保育所よりかなり高い値を示している。なお、各項目とも1%水準で有意差が認められる(表12①, ②, ③)。

「住宅の悩み」についての回答をみると、住宅に対する悩みは「ない」がN保育所51.4%、A保育所43.9%であるのに対して、S保育所は32.8%と低く、多くの悩みを持っていることがわかる。また悩みの理由としては、ダニが出る、カビがでる、湿気・結露ができるなど、S保育所は健康との関わりのある住宅の悩みの比率がN保育所・A保育所と比較してかなり高い値となっている(表13)。

以上のことから、住居と子どもの健康の関係をみると、S保育所では親の側に健康状態は良好であり、身体活動は活発であるとの意識がみられたが、子どもの微症状面からは、感冒、その他気管支系の疾患の発現率が高く、これらは鉄筋コンクリート等の住居構造と関わりがあるようである。つまり、ダニ、カビ、湿気、結露は住居環境の良否に強く支配されるものであり、コンクリート住宅と木造住宅の差が子どもの健康に影響を与えていることが明かに把握される。

次に、「けがの経験の有無」についてみると、けがの経験があると回答したものはN保育所とA保育所は30%台であるのに対して、S保育所は75.4%と非常に高い値を示している(表14)。「子どもの遊び」についての回答結果では、「ほとんど家の外で遊ぶ」がN保育所15.9%に対し、S保育所4.9%、また「どちらかといえば家の中で遊ぶ」はS保育所26.2%に対し、他の2施設は10%台である(表15)。これらの結果をみても、都市中心部で生活する子どもの外遊びは少なく、家の中での遊びが多いことがわかる。

これらの点から、S保育所における子どものけがについてみると、S保育所の地理的環境は都市中心部の繁華街にあり、高層アパートに居住する子どもが多く、外遊びの機会を減少させていること、このことが、子どもの社会環境へ適応するための経験を少なくし、安全に関する能力を低くし傷害に結びついている。子どもの

事故災害は死因順位の第1位であり、莫大な子どもが一年間に傷害を受けている。安全教育は、子どもを保護するための禁止することだけでなく、積極的に遊びや運動を展開して多くの経験をさせたり、生命に危険のないものについては積極的に経験をさせ、「何が危険なのか、なぜ危険なのか、どうしたら安全なのか」について理解させていくことである。この点、大都市の中心部にあるS保育所の子どもはその経験が少なく、それが高い受傷と結びついているものと思われる。

次に、「子どもの遊び友だち」についてみると、「友だちがいない」はS保育所45.9%と高率であるが、他の2施設は30%程度となっている(表16①, ②)。異年令集団の交流もS保育所は非常に低い値となっており、住居環境との関わりがあるようである。

テレビ視聴時間については、各保育所とも2時間以内となっているが、S保育所では5時間以上見るものが8.2%あり、他の2施設より差があり、家の中で遊ぶ傾向が多いことがわかる(表17)。なお、「帰宅後・休日の友人関係」「テレビの視聴時間」についての有意差は認められない。

子どもの遊びでは、S保育所のような大都市の中心部で生活する子どもは、住居環境や外部環境が作用して家庭内の遊びが多くなり、テレビの視聴時間も長くなる。そのため、他の2施設に比較して友だちの数も少なく、子どもの心身の発達に影響を与えるものと思われる。したがって、積極的な外遊びによる活動の展開が必要であるので、これらに対する母親の養育態度の変容が強く望まれる。

「保健所や公報などの活用」は、N保育所とA保育所では、約50%近くの値であるが、S保育所は28%と低い値であり、地域組織への参加度も低い値となっている(検定の結果では1%水準の有意差が認められる。表18, 19)。さらに、「近隣での対人関係」をみると、3施設とも相談、助け合い、食事、買物、子どもを預けるなどの相互のコミュニケーションは非常に低い値であり、人間関係が低いことがわかる(表20)。これらは、都市性の進展に伴う皮相的、

一時的な都市的社会的関係の一端がうかがわれるものである。

5. まとめ

以上の結果から、住居環境及び地域の生活環境のもつ条件は、乳幼児の健康や安全に影響を及ぼしているようである。特に、今回の調査からは、①子どもの微症状の点からみると、都市の中心部で生活をする子どもは呼吸器系や皮膚系の微症状の発現率が高く、これは住居構造にも関連があるようである。②都市の中心部で生活する子どもの住居階数は、一般に高く、高層アパートで生活する子どもが多い。郊外で生活する他の2施設の子どものみは木造住宅に居住する子どもが多い。近年、住居環境で問題となっている、コンクリート住宅に生活する家庭でのカビ、ダニ、湿気、結露などの問題は高層アパートで生活するS保育所に多くみられ、高層住宅に関する建築衛生上の配慮が重要と思われる。③幼児のけがに関する調査結果では、S保育所は外遊びが少なく、友だちも少ないのに対して、N保育所とA保育所は外遊びが多く、友だちも多い実態にあるが、事故災害はS保育所に多くみられる。この結果は、子どもにとって、遊びは人間形成のために不可欠な諸要因を持つものであり、多くの遊びや運動を経験させることによって、事故を防止するための安全能力が身に

つくようになる。子どもにとって重要な安全教育は、子どもの生命に危険のない程度の危険であれば、逆に積極的にその危険に立ち向かわせ、危険と安全の範囲を認識させることである。この点を考えると、都市の幼児は、外遊びの時間を多く持つための母親の養育態度の変容が必要となる。④大都市の中心部にあるS保育所の子どもは、友だちも少なく、異年齢集団の子どもの接触も少ない。これは、子どもの社会性を育てる上で大きな問題である。特に、S保育所の子どもはテレビ視聴時間が長く、これらの点も、パーソナル・コミュニケーションを欠くことになり、将来的に問題点を含んでいるといえる。

今回の調査結果から、子どもと住居環境との間に多くの問題を指摘することができる。その中で、住宅条件のうち、「人」がもたらす因子については、従来までいわれていた以上に環境条件を規制しているように思われる。

つまり、子どもの健康や安全については、その居住者の意識が重要な因子となり、その条件のもつ影響を上廻る力をもった因子となりかねないと言ってもよいのではないと思われる。

そのため、環境条件を十分に把握できる体制の中で、母親が積極的に働きかける態度を養っていくことが必要となる。

表2 住宅の周辺

(%)

	S保育所	N保育所	A保育所
ほとんどが住宅である	26人 (42.6)	79人 (57.2)	39人 (47.6)
商店・住宅の混在	34 (55.7)	15 (10.9)	16 (19.5)
工場が多い	1 (1.6)	8 (5.8)	7 (8.5)
田畑がある	0 (-)	34 (24.6)	19 (23.2)
不明	0 (-)	2 (1.4)	1 (1.2)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=31.21$ ** $P<0.01$		

表3 対象乳幼児の年齢

(%)

	S保育所	N保育所	A保育所
0 ~ 1 歳	13人 (21.3)	9人 (6.5)	4人 (4.9)
2 歳	9 (14.8)	14 (10.1)	3 (3.7)
3 歳	16 (26.2)	43 (31.2)	7 (8.5)
4 歳	14 (23.0)	35 (25.4)	12 (14.6)
5 ~ 6 歳	9 (14.8)	37 (26.8)	56 (68.3)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=66.02$ **		

表4 対象乳幼児の性別

(%)

	S保育所	N保育所	A保育所
男	32人 (52.5)	70人 (50.7)	46人 (56.1)
女	29 (47.5)	68 (49.3)	36 (43.9)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=0.59$ N.S.		

表5 現在の健康状態

(%)

	S保育所	N保育所	A保育所
すこぶる健康である	38人 (62.3)	65人 (47.1)	37人 (45.1)
まあまあ健康である	21 (34.4)	71 (51.4)	39 (47.6)
病気がちである	2 (3.3)	2 (1.4)	6 (7.3)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=10.15$ * $P<0.05$		

表6 微症状

(%)

	S保育所	N保育所	A保育所
咳が出やすい	20人 (28.6)	45人 (33.6)	3人 (2.9)
ゼーゼー、ゼロゼロ などと言いやすい	14 (20.0)	12 (9.0)	23 (21.9)
熱が出やすい	7 (10.0)	14 (10.4)	13 (12.4)
腹痛をよく訴える	1 (1.4)	11 (8.2)	9 (8.6)
吐きやすい	2 (2.9)	8 (6.0)	4 (3.8)
乗物酔いをする	9 (12.9)	13 (9.7)	11 (10.5)
湿疹・ブツブツが 出やすい	10 (14.3)	23 (17.2)	6 (5.7)
疲れをよく訴える	1 (1.4)	0 (-)	24 (22.9)
足やひざを痛がる	3 (4.3)	4 (3.0)	3 (2.9)
わからない	3 (4.3)	4 (3.0)	9 (8.6)
(複数回答)			
特にない	24 (25.5)	64 (32.3)	36 (25.5)

表7 活発さ

(%)

	S保育所	N保育所	A保育所
活発である	57人 (93.4)	121人 (87.7)	75人 (91.5)
あまり活発でない	4 (6.6)	16 (11.6)	7 (8.5)
不明	0 (-)	1 (0.7)	0 (-)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=2.42$ N.S.		

表8 住宅の所有関係

(%)

	S保育所	N保育所	A保育所
持ち家	24人 (39.3)	87人 (63.0)	41人 (50.0)
民間借家	20 (32.8)	37 (26.8)	28 (34.1)
公団・公社の借家	0 (-)	0 (-)	1 (1.2)
都道府県・ 市町村営の借家	5 (8.2)	2 (1.4)	2 (2.4)
社宅・公務員住宅	7 (11.5)	8 (5.8)	3 (3.7)
間借り・同居	4 (6.6)	4 (2.9)	6 (7.3)
その他	1 (1.6)	0 (-)	1 (1.2)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=22.24$ *		

表9 住宅の建て方

(%)

	S保育所	N保育所	A保育所
一戸建て	13人 (21.3)	112人 (81.2)	55人 (67.1)
1～2階建ての 集合住宅	11 (18.0)	10 (7.2)	20 (24.4)
3～5階建ての 集合住宅	17 (27.9)	16 (11.0)	7 (8.5)
エレベーター付きの 集合住宅	20 (32.8)	0 (-)	0 (-)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=140.08$ **		

表10 住宅の構造 (%)

	S保育所	N保育所	A保育所
木造・木造モルタル造	23人 (37.7)	109人 (79.0)	63人 (76.8)
鉄筋コンクリート造・ 鉄骨造	38 (62.3)	25 (18.1)	17 (20.7)
その他	0 (-)	2 (1.4)	2 (2.4)
不明	0 (-)	2 (1.4)	0 (-)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=46.22$ **		

表12 住宅・近隣・地域環境の適・不適 (%)

① 住まい	S保育所	N保育所	A保育所
良 い	13人 (21.3)	68人 (49.2)	34人 (41.5)
やや 良 い	26 (42.6)	56 (40.6)	33 (40.2)
やや 悪 い	15 (24.6)	11 (8.0)	9 (11.0)
悪 い	6 (9.8)	3 (2.2)	6 (7.3)
不明	1 (1.6)	0 (-)	0 (-)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=27.22$ **		

表11 住宅の階数 (%)

	S保育所	N保育所	A保育所
1 階	24人 (39.3)	112人 (81.2)	66人 (80.5)
2 階	13 (21.3)	12 (8.7)	12 (14.6)
3 階	7 (11.5)	7 (5.1)	2 (2.4)
4 階	6 (9.8)	0 (-)	1 (1.2)
5 階	3 (4.9)	1 (0.7)	1 (1.2)
6 ~ 9 階	5 (8.2)	0 (-)	0 (-)
10 階 以上	2 (3.3)	0 (-)	0 (-)
不明	1 (1.6)	6 (4.3)	0 (-)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=73.48$ **		

② 近 隣	(%)		
良 い	11人 (18.0)	66人 (47.8)	29人 (35.4)
やや 良 い	26 (42.6)	57 (41.3)	38 (46.3)
やや 悪 い	17 (27.9)	10 (7.2)	10 (12.2)
悪 い	6 (9.8)	5 (3.6)	5 (6.1)
不明	1 (1.6)	0 (-)	0 (-)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=30.11$ **		

③ 町 内	(%)		
良 い	13人 (21.3)	72人 (52.2)	27人 (33.0)
やや 良 い	25 (41.0)	51 (37.0)	37 (45.1)
やや 悪 い	17 (27.9)	12 (8.7)	14 (17.1)
悪 い	5 (8.2)	2 (1.4)	4 (4.9)
不明	1 (1.6)	1 (0.8)	0 (-)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=29.46$ **		

表13 住宅の悩み (%)

	S保育所	N保育所	A保育所
ダニ	7人 (17.1)	8人 (11.9)	6人 (7.5)
カビ	16 (39.0)	20 (29.9)	11 (13.8)
湿気・結露	17 (41.5)	20 (29.9)	11 (13.8)
夏の蒸し暑さ	4 (9.8)	15 (22.4)	6 (7.5)
冬のすき間風	11 (26.8)	20 (29.9)	15 (18.8)
戸外の騒音	11 (26.8)	15 (22.4)	16 (20.0)
工場・自動車等の排気ガス	8 (19.5)	5 (7.5)	8 (10.0)
子どもが跳びはねて歩く(遊ぶ)ことに対する隣りや下の階からの苦情	10 (24.4)	3 (4.5)	0 (-)
その他	2 (4.9)	6 (9.0)	6 (7.5)
不明	2 (4.9)	4 (6.0)	1 (1.3)

(複数回答)

ない	20 (32.8)	71 (51.4)	36 (43.9)
----	--------------	--------------	--------------

表15 遊び一家の内・外 (%)

	S保育所	N保育所	A保育所
ほとんど家の外	3人 (4.9)	22人 (15.9)	8人 (9.8)
どちらかといえば家の外	13 (21.3)	36 (26.1)	21 (25.6)
半々	25 (41.0)	62 (44.9)	36 (43.9)
どちらかといえば家の中	16 (26.2)	14 (10.1)	12 (14.6)
ほとんど家の中	3 (4.9)	4 (2.9)	5 (6.1)
不明	1 (1.6)	0 (-)	0 (-)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=18.02$ N.S.		

表14 けがの有無 (%)

	S保育所	N保育所	A保育所
有る	46人 (75.4)	54人 (39.1)	28人 (34.1)
無い	15 (24.6)	80 (58.0)	53 (64.6)
不明	0 (-)	4 (2.9)	1 (1.2)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=28.93$ **		

表16-① 帰宅後・休日の友人関係(人数) (%)

	人数			
	1人	5人	10人	8人
いる	1人	(8.2)	(7.2)	(9.8)
	2人	(11.5)	(17.4)	(22.0)
	3人	(18.0)	(23.2)	(13.4)
	4人	(3.3)	(8.0)	(6.1)
	5人	(6.6)	(8.7)	(11.0)
	6人以上	(6.6)	(4.3)	(7.3)
いない	28 (45.9)	43 (31.2)	25 (30.5)	
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)	
検 定	$\chi^2=11.51$ N.S.			

表16-② 帰宅後・休日の友人関係(年齢差) (%)

	S保育所	N保育所	A保育所
同年齢	24人 (39.3)	47人 (34.1)	33人 (40.2)
年上	9 (14.8)	36 (26.1)	16 (19.5)
年下	0 (-)	4 (2.9)	3 (3.7)
年齢に関係ない	2 (3.3)	18 (13.0)	8 (9.8)
不明(友人の年齢不明)	0 (-)	3 (2.2)	0 (-)
いない・わからない	26 (42.6)	30 (21.7)	22 (26.8)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=19.15$ *		

表17 テレビの視聴時間

(%)

	S保育所	N保育所	A保育所
～ 1 時間	21人 (34.4)	28人 (20.3)	21人 (25.6)
～ 2 時間	27 (44.3)	68 (49.3)	40 (48.8)
～ 3 時間	7 (11.5)	30 (21.7)	15 (18.3)
～ 4 時間	0 (-)	6 (4.3)	1 (1.2)
～ 5 時間以上	5 (8.2)	6 (4.3)	5 (6.1)
まったく見ない	0 (-)	0 (-)	0 (-)
不 明	1 (1.6)	0 (-)	0 (-)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=15.27$ N.S.		

表20 近所づきあいの程度

(%)

	S保育所	N保育所	A保育所
挨拶をする程度	26人 (42.6)	33人 (23.9)	33人 (40.2)
世間話をする程度	25 (41.0)	66 (47.8)	27 (32.9)
相談・助け合い	8 (13.1)	22 (15.9)	14 (17.1)
食事・買物・旅行を一緒にする	0 (-)	4 (2.9)	1 (1.2)
子どもを預ける・預かる	2 (3.3)	12 (8.7)	7 (8.5)
不 明	0 (-)	1 (0.7)	1 (1.2)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=15.5$ N.S.		

表18 保健所等の公報に対する関心度

(%)

	S保育所	N保育所	A保育所
必 ず 読 む	17人 (27.9)	60人 (43.5)	44人 (53.7)
時 々 読 む	31 (50.8)	66 (47.8)	28 (34.1)
まったく読まない	11 (18.0)	9 (6.5)	9 (11.0)
不 明	2 (3.3)	3 (2.2)	1 (1.2)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=21.43$ **		

表21 親子による運動

(%)

	S保育所	N保育所	A保育所
し て い る	11人 (18.0)	17人 (12.3)	18人 (22.0)
し て い な い	47 (77.0)	120 (87.0)	64 (78.0)
不 明	3 (4.9)	1 (0.7)	0 (-)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=10.32$ *		

表19 母親クラブ等地域組織への参加度

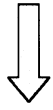
(%)

	S保育所	N保育所	A保育所
必 ず 参 加 す る	0人 (-)	2人 (1.4)	5人 (6.1)
時 々 参 加 す る	9 (14.8)	39 (28.3)	13 (15.9)
まったく参加しない	47 (77.0)	90 (65.2)	61 (74.4)
不 明	5 (8.2)	7 (5.1)	3 (3.7)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=13.78$ *		

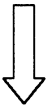
表22 子どもの運動クラブ・体育教室への参加

(%)

	S保育所	N保育所	A保育所
通 っ て い る	13人 (21.3)	15人 (10.9)	9人 (11.0)
通 っ て い な い	46 (75.4)	122 (88.4)	71 (86.6)
不 明	2 (3.3)	1 (0.7)	2 (2.4)
計	61 (100)	138 (100)	82 (100)
検 定	$\chi^2=6.59$ N.S.		



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1, 研究目的

母子の健康・安全行動は,生態系としての住居,近隣環境,遊び場の状況等に大きく支配される。また,乳幼児の微症状,運動不足症候群,事故等の発現は,社会環境条件と高関係にある。

しかし,これらに関する体系的かつ総合的分析データは極めて少ない現状にあり,特に,都市化,情報化との関連下における学際的研究が切望されている。